

## 一枚の絵

我が家のリビングに一枚の絵が飾ってあります。デイズニーの城をバックにミッキーとミディーそしてぬいぐるみの犬が描かれています。決して上手とはいえないその絵は、ベニヤ板に直接描かれています。

一九八九年六月私は、海外駐在を命じられ、メキシコ工場に赴任しました。

彼は守衛長をしていました。身長一九五センチ、体重一〇〇キログラム、腕は丸太のように太く、ボディビルをやっているかのように筋肉もりもりの大男でした。しかし、体格に似合わずやさしい性格で、なぜか気が合いました。片言の英語と片言のスペイン語、そして少しの日本語での会話でした。

彼は大変器用で、絵心がありました。鉛筆でのスケッチや、焼きコテでベニヤ板に絵をかいたりしていました。

その彼が自分で描いたこの絵を私にプレゼントしてくれました。私は机の後ろにこの絵を描けていましたが、帰国時この絵を持って帰ることにしました。

私は帰国に際し多くの写真、お土産を持ち帰りましたが、長い年月を経過した今、どれもどこかに行ってしまった、いつも見ているのは、この絵だけになってしまいました。額は薄い板を波釘で張り合わせ、軽くニスを塗っただけの粗末なものですが、この絵を眺めていると当時の思い出が読みがってきます。

私の宝ものの一つです。

